

9. ゴールド・フィールズ社(Gold Fields Limited)

1. 企業概要

本社	南アフリカ・ヨハネスブルグ
主要事業	非鉄金属鉱山
従業員数	約 48,000 人
決算日	6 月末日
主要関連会社	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゴールド・フィールズ・ガーナ社 (Gold Fields Ghana Ltd: 71.1%) ・ JCI 社 (JCI Ltd. South Africa: 8.0%) ・ ランドゴールド社 (Randgold and Exploration Co.Ltd.South Africa: 21.9%) ・ エルドラド社 (Eldorado Gold Corporation: 37%)

2. 財務状況 (US\$ million)

	2003/2002 年	2002/2001 年	2001/2000 年
売上高 Turnover	1,532	1,230	1,011
当期利益 Net earnings (loss)	326	302	(119)
資産 Total assets	2,467	1,966	1,557
流動資産 Current assets	393	411	130
負債 Total liabilities	1,017	895	680
流動負債 Current liabilities	257	236	127
株主資本 Shareholders' equity	1,450	1,071	877
探鉱費 Exploration ¹	32.1	19.8	17.5

3. 主要鉱産物の生産・開発状況

主要鉱産物の生産推移

	2003/2002 年	2002/2001 年	2001/2000 年	2003 年の 世界シェア
金 (t)	130.8	136.0	131.3	5.4 % (3 位)

4. 沿革

ゴールド・フィールズ社 (GFL 社) は、1998 年 2 月、南アフリカの 6 大マイニング・ハウスの一つとしてそれぞれ知られていた GFSA 社 (Gold Fields of South Africa Ltd.) とジェンコール社 (Gencor Ltd.) の金資産を統合して設立された。世界 4 位 (03 年生産量) の金プロデューサーである。

GFSA 社は 1887 年に設立された南アフリカ最大・最古のマイニング・ハウスであった。ドリエフォンテイン鉱山 (Driefontein)、クルーフ鉱山 (Kloof: 以上、金)、オーキープ鉱山 (O'okiep: 銅)、ブラック・マウンテン鉱山 (Black Mountain: 銅、鉛、亜鉛) などの優良鉱山に権益を保有し、経営の多角化を進めることで事業を拡大してきたが、硬直的な組織運営で知られる保守的な企業であった。

一方、ジェンコール社は 1895 年に設立されたジェネラル・マイニング社 (General Mining) が前身であり、1970 年代のユニオン・グループ (Union Corporation groups) との合併により社名が変更された。主な権益保有資産にはビートリックス鉱山 (Beatrix: 金)、サマンコール社 (Samancor Ltd.: クロム、マンガン) などがあり、金、ウラン、フェロアロイ、石炭などを生産する南アフリカ第 2 のマイニング・ハウスとして知られていた。

97 年 10 月、ジェンコール社と GFSA 社は両社の金資産を合併して Goldco 社 (仮称) を設立

¹ 探鉱費は Corporation Exploration Strategies のデータを引用した。

すると発表した。なお、こうした企業再編の動きは、昨今の南アフリカの鉱業事情が背景にある。直接的には、採掘現場の深部化に伴うコスト増大、金価格の下落が要因で、70年に1,000tを越えた金生産量が96年以降は500tを下回るという状況に顕著に認められる。さらに、社会環境の変化として94年5月に黒人指導者マンデラ氏が大統領に就任、アパルトヘイトに基づく白人ならびに大企業優遇政策が撤廃され、98年、「新南アフリカ鉱物、鉱業政策白書」において“資源所有権（Mineral Rights）への課税および非生産鉱区の国家管理”の姿勢が示されたことが挙げられる。

当初、両社はドリエフォンテイン鉱山（Driefontein Consolidated Ltd.）を新会社の母体とすることで検討をすすめていたが、同鉱山の権益15.1%を保有したAAC社（現AAPlc社）が同社所有のウエスト・ディープ鉱山（West Deep）およびウルトラ・ディープ鉱山（Ultra Deep）に近接していることを理由に反対し、本案は白紙に戻った。その後、代替としてビートリックス鉱山を母体とする案が検討されたがこれも否決され、最終的にゴールド・シェルフ・ワン鉱山（Gold Shelf One）を母体とすることで決着した。新会社は、98年2月2日、GFL社としてヨハネスブルグ株式市場に上場された。

その後、GFL社、AngloGold社、AAC社、Amgold社が、各社の資産整理を目的としてGFL社とドリエフォンテイン鉱山の合併に合意、99年4月7日、同合意は両社株主によって支持され、5月4日、南アフリカ高等裁判所により承認された。こうして99年1月1日にさかのぼった両社の合併が成立し、新生GFL社が誕生した。この際、GFL社はAngloGold社の自社保有権益（21.5%）をAAC社に譲渡した。

さらに、2000年6月13日、GFL社はカナダ・トロントに本社を置く世界最大のマイニング・ロイヤリティ会社（mining royalty company）の一つであるフランコ・ネバダ社（Franco-Nevada Mining Corp.）と近日中に対等合併することを明らかにしたが、南アフリカ共和国政府当局の同意が得られず、合併計画は頓挫した。

2002年5月9日に、ニューヨーク証券取引所に株式を上場した。

最近、黒人の所有や企業経営への参加拡大（Black Economic Empowerment）の他、ロイヤルティ・制度の導入（金鉱業の場合、売上高の3%）にみられるような新たな鉱業政策が進められている。さらに、鉱山労働者のエイズ問題も顕在化している。このような状況を背景に、大手の金生産者は、その資産をより小規模な生産者に売却する傾向にある。Anglogold社はFree State鉱山をHarmony社とARMGold社（黒人経営企業）の子会社であるFreegold社に売却した。その後、Harmony社とARMGold社は合併して、Harmony Gold Mining社となった。

2003年9月、GFL社はIamgold社（世界金生産7位のカナダ系会社）との合併に合意した。この合併は、GFL社の株式20%を保有するNorilsk Nickel社の権益を薄めるためと言われている。

2004年10月、南アフリカ共和国の金鉱業に特化しているHarmony Gold Mining社（世界金生産6位）がGFL社に対して81億ドルで買収を宣言した。GFL社は買収を拒否する姿勢を示しているが、南アフリカ共和国におけるランド建て金価格の低迷と鉱量枯渇を抱えるHarmony Gold Mining社にとって優良鉱山を保有するGFL社は魅力的な投資対象となっている。

5. 事業内容

ゴールド・フィールズ社の金操業は南アフリカ共和国と海外の2極構造に代表される。南アフリカ共和国では、Witwatersrand Basinにおいて、ドリエフォンテイン（Driefontein）、クローフ（Kloof）、ビートリックス（Beatrix）の3鉱山を保有する。海外では、ガーナのタルクワ（Tarkwa）及びダマング（Damang）鉱山、オーストラリアのアグニュー（Agnew）及びセント・アイブス（St Ives）鉱山を保有する。なお、南アフリカのセント・ヘレナ鉱山は、2002年10月にARMGold社とHarmony Gold社のJVに売却された。

2003年現在、南アフリカ共和国の3鉱山の生産は、同社の権益分全生産に対して、Driefontein(28%)、Kloof(26%)、Beatrix(15%)となっており、3鉱山だけで全生産の69%を占めている。海外では、Tarkwa鉱山とSt.Ives鉱山の生産規模が大きく、全生産のほぼ12%をそれぞれが占めている。

03/02 年主要権益保有鉱山による鉱石生産

オペレーション名	権益 %	鉱量 百万 t	タイプ	品位	生産量 ² (権益分)
ドリエフォンテイン (南アフリカ) Driefontein	100	108.8	UG	7.7 g/t	35.6 t
クローフ (南アフリカ) Kloof	100	106.0	UG	9.1 g/t	33.8 t
ビートリックス (南アフリカ) Beatrix	100	77.2	UG	4.9 g/t	20.5 t
タルクワ (ガーナ) Tarkwa	71.1	232.0	OP	1.3 g/t	17.3 t (12.3 t)
ダマング (ガーナ) Damang	71.1	17.3	OP	1.7 g/t	9.4 t (6.7 t)
アグニュー (オーストラリア) Agnew	100	2.6	OP、UG	6.4 g/t	5.3 t
セント・アイブス (オーストラリア) St Ives	100	28.2	OP、UG	3.3 g/t	16.4 t

- ・ オリックス (Oryx) 鉱山は、ビートリックス 4 立坑 (Beatrix 4 shaft) として、ビートリックス鉱山に併合された。
- ・ ガーナで、タルクワ鉱山に近接するダマング (Damang) 鉱山の権益をオーストラリアの Ranger Minerals 社から 2002 年 1 月に取得した。権益比率はタルクワ鉱山と同じく 71.1%で、タルクワ鉱山との効率的な探鉱・開発が期待されている。
- ・ 2001 年 11 月に WMC 社からオーストラリアの Agnew 鉱山及び St Ives 鉱山の権益を取得した。
- ・ 2003 年 11 月にセント・アイブス鉱山に新生産設備の建設を行うことを発表した。投資額は 125 百万ドルで、600 千 oz/年へ生産能力が引き上げられる。なお同鉱山のマインライフは 9 年と見られている。
- ・ 2003 年 9 月にドリエフォンテイン鉱山の西端 280,000m²をアングロゴールド社に売却することを発表した。売却される鉱区はアングロゴールド社の鉱山に近接しており、埋蔵量は 1.4 百万トン (金品位 12.7g/t) とされている。なお、売却金額は 315 百万ランド (約 43 百万ドル) である。

6. 探鉱戦略

(1) 概要

ゴールド・フィールズ社の探鉱部門の本部は米国のデンヴァーにある。さらに、サンチャゴ(南米を管轄)、パース(豪州・東南アジア・中国を管轄)、オックスフォード(アフリカ・欧州・中央アジアを管轄)に事務所を構えている。デンヴァー事務所では北米・中米プロジェクトの発掘・評価を行っており、ヨハネスブルグ事務所では南アフリカ共和国の鉱山周辺探鉱を担当している。探鉱の対象として、2 百万 oz (62t)以上の金量、年産 200,000 oz (6t)以上、キャッシュ・コストが金価格の半分以下、開発コストの回収期間は 2 年、投資に対する利益率は 2 桁等を掲げている。

2002 年の探鉱費は US\$ 19.8 百万で、主要非鉄企業中 18 位であった。その後、2003 年には US\$32.1 百万、2004 年の探鉱予算は US\$65.0 百万と大幅の増加傾向を示している。

(2) 対象鉱種

主に金を対象としているが、フィンランドでの白金族金属の探鉱にかなりの予算を割いている。2003 年の探鉱実績額 US\$32.1 百万の約 78%は金の探鉱に向けられ、残りの 22%はフィンランドの北極圏における白金族金属の探鉱に使われた。

(3) 対象地域・探鉱段階

探鉱活動は北米、中南米、オーストラリア、アフリカ、欧州、アジアと世界的な規模で行っており、国別には、カナダ・ペルー・エクアドル・ブラジル・グアテマラ・ドミニカ・チリ・ベネ

²生産量はアニュアルレポートに基づく。

ズエラ・仏領ギニア・オーストラリア・ガーナ・南アフリカ共和国・コンゴ・エリトリア・ブルガリア・中国等があげられる。探鉱段階に関しては、2004年の探鉱予算 US\$65.0 百万の内訳として、グラスルーツに 17%、事業化調査に 35%、既存鉱山周辺の探鉱に 48%が予定されている。

(4) 最近の動向

(オーストラリア)

国別探鉱費では最大であり、2004年には US\$26.3 百万が予定されている。ゴールド・フィールズ社の関心は、2001年に WMC から買収したオーストラリア西部の St.Ives と Agnew 金鉱山の周辺探鉱にあり、それぞれに US\$18.85 百万と US\$3.58 百万が充てられている。

(中南米)

2004年の中南米における探鉱費予算は、US\$7.4 百万と言われる。国別では、ペルー(US\$2 百万)、エクアドル(US\$1.4 百万)、ブラジル(US\$1.2 百万)、グアテマラ(US\$1.2 百万)、チリ・ドミニカ・フランス領ギニア(それぞれ US\$0.4 百万)等から構成される。グアテマラで Radius Exploration 社と、エクアドルで Iamgold 社と JV を組んで探鉱を行っているほか、ブラジル、ペルー、チリなどで初期探鉱を実施中である。

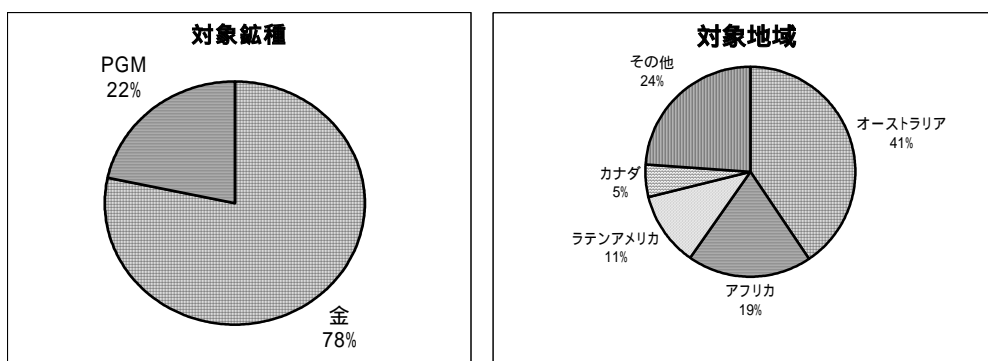
(アフリカ)

2004年のアフリカの探鉱予算は、ガーナにおける鉱山周辺探鉱(US\$5.2 百万)を含む US\$12.5 百万が充てられている。南アフリカ共和国では、Kloof 鉱山周辺探鉱(US\$2.73 百万)、Beatrix 鉱山の周辺探鉱(US\$1.7 百万)、Driefontein 鉱山周辺探鉱(US\$0.65 百万)の合計約 US\$5.1 百万が予定されている。タンザニアでは、African Eagle Resources 社と Miyabi 鉱床を、Lakota Resources 社と Tembo 鉱床の共同探鉱を行っている。このうち Tembo 鉱床はバリック社の Bulyanhulu 鉱山に隣接している。

ブルキナ・ファッソでは、カナダの Orezone Resources 社と組んで、Essakan 金鉱床の探鉱を計画しており、2004年の探鉱予算は US\$0.8 百万と推定される。

(フィンランド)

フィンランド北部で白金を対象とした探鉱を実施しており、ゴールド・フィールズ社は最も多くの探鉱予算を割いている。2003年3月には、JVのパートナーであったオートクンプ社から Arctic Platinum Project の権益をすべて買い取り、100%の権益を保有することとなった。2004年には US\$14 百万を投じて同プロジェクトの F/S 探鉱を予定している。2003年末現在、資源量で 156.7 百万トン(品位 2.42 g/t 2PGE+Au)が見込まれている。



2004年探鉱予算